

1 プラスチックごみを取り巻く状況

プラスチック資源循環戦略

【背景】 ・廃プラスチック有効利用率の低さ、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題
 ・我が国は国内で適正処理・3Rを優先し、国際貢献も実施。一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄量、アジア各国での輸入規制等の課題

【基本原則】
 - 3R + Renewable (持続可能な資源) -

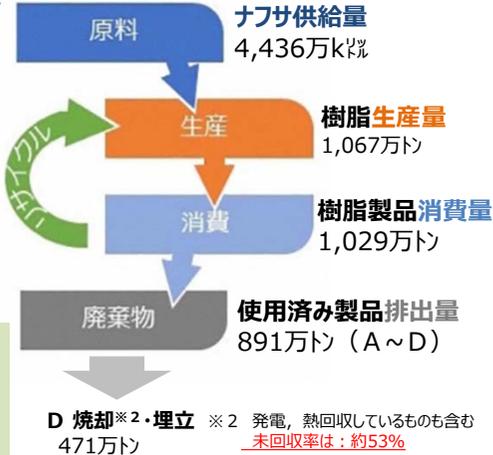
プラスチックの循環状況と課題 (全国ベース)

※(一社)プラスチック循環利用協会HP参照

汚れ、劣化等により必ずしもLCA評価※1において再生利用が上位ではない
 ※1 LCA：ライフサイクルアセスメント

①新たな資源の投入抑制に向けた課題
 ・徹底した発生抑制(ワンウェイプラの削減)
 ・持続可能な素材への転換(代替素材の利用促進)

再生樹脂投入量
 76万トン※3
 ※3 再生利用の内、海外輸出分などを除く



リサイクル量

A 再生利用 : 208万トン
 B ケミカルリサイクル : 39万トン
 C 固形燃料/セメント原・燃料 : 173万トン

②回収とリサイクル推進に向けた課題
 ・素材の多様化
 ・再生利用に不向き(衛生面・劣化・汚れなど)

③プラごみによる海洋汚染防止に向けた課題
 ・ポイ捨て防止, 河川清掃活動の促進
 ・確実な焼却・埋立

2 本市のプラスチックごみの現状

表1 家庭ごみの組成の推移 (万トン)

	2009	2018	2018-2009	
可燃ごみ	資源化可能な古紙	4.6	4.4	-0.2
	資源化困難な古紙	4.8	4.7	-0.1
	食品廃棄物	9.3	7.9	-1.4
	プラスチック類	4.9	5.5	0.6
	その他	3.2	4.3	1.1
不燃ごみ	1.6	2.0	0.4	
ごみ処理量 合計	28.4	28.8	0.4	

図1 プラスチックごみの組成 (2018年)

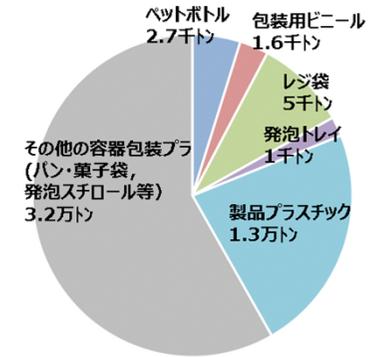
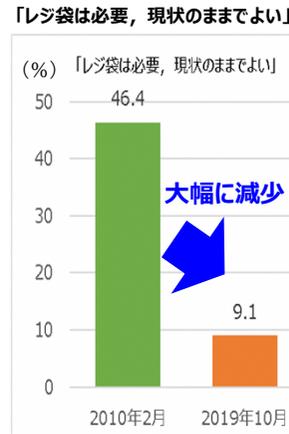


図2 市民アンケート (2019年)



プラスチック類の現状

- 2009年度比：約6千トン増加 (表1参照)
- レジ袋 : 約5千トン (図1参照)
- レジ袋削減に関する市民意識 : 「レジ袋は必要、今のままでよい」と回答した率は大幅に減少 (図2参照)
- ペットボトル : 約2.7千トン
- その他の容器包装プラスチック : 近年約3.5~4.0万トン排出 (図1参照)

主な課題
 ・「リフューズ」の推進
 ・適正分別の周知強化
 ・容器包装プラスチックの処理のあり方について整理が必要

3 新計画での施策の方向性

将来のあるべき姿	施策の方向性	指標の考え方 (案)
① 新たな資源の投入が抑制されている ・不要なワンウェイプラスチックが削減されている ・持続可能な素材(紙,長寿命,バイオプラ等)への転換が進んでいる	・徹底した発生抑制 (リフューズの推進) ・代替素材の利用促進	・レジ袋・白色トレイ流通量 ・マイバッグ, マイボトルの普及率 ・バイオプラスチックの導入量
② 回収とリサイクルが推進されている ・ペットボトルの可燃ごみへの混入がなくなる	・分別の徹底 ・リサイクルルートの確立	・可燃ごみ中のペットボトル量, プラスチックごみ量
③ プラスチックごみによる海洋汚染が低減されている ・確実な焼却・埋立, ポイ捨ての防止	・河川や海への流出防止のためのポイ捨て防止, 河川清掃活動の促進 ・適正処理の推進	・不法投棄処理量 ・河川清掃ごみ中のプラスチックごみ量